

協議会だより

DHA・EPA協議会

〒151-0062

東京都渋谷区元代々木町 32-7

(財)日本水産油脂協会新館内

TEL & FAX: 03-3469-6931

E-mail: dha_epa@par.odn.ne.jp

NHK と魚と糖尿病

備前化成株式会社 三澤 嘉久

今年前半、注目された健康食品素材として皆さん何を思い浮かべるでしょうか。

健康食品の業界紙では、今年前半の注目素材・製品として「レスベラトロール」が取り上げられています。「レスベラトロール」は、ブドウの果皮等に含まれているポリフェノールで、6月中旬にNHKの日曜夜9時放映のスペシャル番組で「長寿素材」として紹介されたことより火がつけました。余りの反響に、NHKは、再放送を繰り返したほどです。当然、健康食品としても「レスベラトロール」は、ヒット商品となっています。

以前は民間放送の健康情報番組に取り上げられた健康食品がブームとなっていました。最近ではNHKの番組で取り上げられた健康食品素材が何かと話題となっており、業界としては、NHKの番組でどの素材が放映されるか情報収集をしているほどです。

そのような状況の中で、8月中旬、NHKの夜9時のニュースを何気なく見ていたら、酒場で酒を酌み交わしている中年男性の画面と「〇〇〇を食べると糖尿病にかかりにくくなる」というキャッチフレーズ(確かこんな感じだったと思いますが)で番組が始まりました。また、新しい素材の紹介と思い、期待を込めてみていたら、「〇〇〇」は、「さかな」で、「魚を食べると糖尿病になりにくくなる。ただし、男性のみ。」という内容でした。

今回の報道された内容について、各種情報ソースから収集したものを以下に記載します。

- 厚生労働省の多目的コホート研究班(班主任 津金昌一郎・国立がん研究センターがん予防・検診研究センター 予防研究部長)は、8月17日、魚類摂取量が多い男性は、摂取が少ない男性に対し、糖尿病リスクが最大3割低いとの研究成果を発表
- 調査は、95年と98年に実施。対象は40~69歳の男女5万2680人(男性2万2921人、女性2万9759人)で5年間の追跡調査。アンケートに基づき魚介類摂取量で4群に分け、男性の場合、各群の真ん中に位置する人の一日当たりの摂取量は、(1)36.6g、(2)65g、(3)100.8g、(4)171.7gとなった。
- 結果、5年後に糖尿病を発症していた人は、男性572人、女性399人。各群の発症者の割合(発症率)は、男性で(1)2.9%、(2)2.5%、(3)2.4%、(4)2.2%となり、摂取量が最も少ない群の糖尿病発症リスクを1とした場合、摂取量が多いほどリスクが低下し、最も摂取量が多い群は0.73と約3割低かった
- 女性には、この傾向が見られなかった。
- 男性のみ摂取した魚を分けて調べたところ、脂の量が多い魚ではリスク低下が見られた。脂の少ない魚や、魚以外の魚介類(いか、たこ、えび、貝類)では関連が見られなかった。
- 同研究班によると、魚に含まれるEPA、DHA、ビタミンDなどが、糖尿病を防ぐインスリンの量やききやすさに良い効果を与えた可能性ある。女性は男性に比べて、体脂肪が多いため、魚に蓄積された水銀などの環境汚染物質を体内に取り組みやすく、魚の栄養効果を打ち消した可能性もあるとしている。

健康食品業界にいる身として、「なんだ EPA、DHA か」という気分と、DHA・EPA 協議会にいる身として、「EPA・DHA が話題になった」という、がっかりした気分とうれしい気分の半々の心境でした。実際、この報道でどうなっているかは、皆さんご存知のことと思います。

ただし、今後の素材としての「DHA・EPA」の発展には、「環境汚染物質」がキーワードであり、「魚」という食品との差別化を含め、DHA・EPA 業界発展のポイントの一つであることを確信しました。

このニュースの終わりの場面で、仕事帰りに寄った酒場で、顔が赤らんだ中年男性たちが、刺身をつまみにして、うれしそうに乾杯している姿が妙に印象的でした。

《幹事会のうごき》

平成23年7月13日(水)13:00~15:00に、(財)日本水産油脂協会新館において平成23年度第4回幹事会が開催された。

- ・ 関連情報の収集について、各幹事が担当する学会誌、業界紙等の役割分担を改めて検討した。
- ・ 先に案内を差し上げた「食品の機能性評価モデル事業」について、協議会としても前向きに取り組み、「機能性評価専門チーム」に対して、関連情報の文献データを提供することとした。